

平成29年度「人権施策の実施状況」

この文書は、平成14年に施行した「和歌山県人権尊重の社会づくり条例」に基づき、平成16年8月に策定した「和歌山県人権施策基本方針」（平成22年2月第一次改定、平成27年2月第二次改定）に則り、平成29年度に和歌山県が実施した人権施策について、公表するものです。

和歌山県人権尊重の社会づくり条例(抄)

(県の責務等)

第2条

4 県は、人権施策の推進に当たっては、人権に関する実態の把握に努めるとともに、県が実施した人権施策について定期的に公表するものとする。

(人権施策基本方針)

第4条 知事は、人権施策の総合的な推進を図るための基本となる方針を定めるものとする。

第1 人権施策の推進

1 人権教育・啓発の推進

(1) 人権教育の基本的な取組

家庭における教育の支援として、子育てに関する保護者等の学習機会及び情報を提供するとともに、保護者等が子育てに関する不安や悩みを相談できる体制づくりを支援しました。

学校教育においては、教職員を対象とした研修会等の開催、学校訪問による指導及び資料集の刊行等を行い、人権が尊重される環境づくりや人権尊重の理念に対する理解を深め、これを体得することを目指す教育の一層の充実を図りました。

社会教育においては、県内公立小学校及び特別支援学校小学部に在籍する児童の保護者を対象として、様々な人権問題に関する学習機会の充実を図るとともに、広く県民の人権問題に対する理解と認識を深めるため、人権問題に関する学習機会の提供や指導資料等の作成、指導者の養成等を行いました。

識字問題解決のための取組や障害のある人の社会参加や学習活動を支援するための取組を推進するなど、人権課題解決のための社会教育活動の充実を図りました。

(2) 人権啓発の基本的な取組

県民全体の人権意識の高揚を図るため、(公財)和歌山県人権啓発センターを核に、学びの場や考えるきっかけと素材の提供、マスメディアを活用した広報・啓発及び国・市町村・関係団体と連携した啓発活動を展開しました。

特に、「同和運動推進月間（11月1日～11月30日）」「人権を考える強調月間（11月11日～12月10日）」において、ふれあい人権フェスタや講演会の開催等各種啓発活動に重点的・集中的に取り組みました。

企業や団体の研修責任者を対象に、人権が尊重される職場づくりに関する人権研修を実施するなど、企業等における職場内研修をはじめとする人権に関する取組が一層推進されるよう働きかけました。

（3） 特定職業従事者に対する教育・啓発の充実・強化

行政職員、教育職員、警察職員、消防職員、医療・福祉関係職員等を対象とする人権研修を実施するとともに、研修指導者の養成に努めました。

（4） 人材の育成と調査・研究の推進

人権教育・啓発が地域・職場等に浸透するよう、指導者の育成に努めました。

感性が発達する幼児期（3～5歳児）に「思いやり」や「いたわり」の心を育み人権を尊重できる子供を育てることを目的とした「人権感覚を育てよう」プログラムを普及させるため、ファシリテーターの養成講座や幼稚園等への出張講座の開催等に取り組みました。

2 相談・支援・救済の推進

人権に関する様々な相談に対し、総合的な窓口や専門的に対応できる窓口を設置するとともに、県広報紙に人権相談窓口一覧表を掲載し、県民への情報提供を行いました。

県内の各相談・支援機関の連携強化、相談実務担当者の知識・技能向上を図り、相談支援体制の充実・強化に努めました。

人権侵害事件については、行政が主体的に取り組む必要があるとの認識のもと、市町村等と連携して被害者の救済を図るとともに、国に対して被害者の救済に関する法制度の早期整備を要望しました。

第2 分野別施策の推進

1 環境と人権

かけがえのない地球の環境を守りお互いの生命と生活を守るため、環境問題は重要な人権問題であるとの認識に立って、温室効果ガス排出の抑制や和歌山県環境学習・環境保全活動の手引き「エコナビわかやま」等を県民へ普及啓発するとともに、環境学習アドバイザーの派遣やわかやまこどもエコチャレンジ事業を実施するなど、環境保全意識の向上と環境教育の推進等に積極的に取り組みました。

SNSを通じて、環境にやさしい取組等の情報発信を行う「エコの和」を実施しました。

子供達に環境保全の必要性について、楽しく理解を深めてもらうため、おもしろ環境まつりを開催しました。

2 情報と人権

県民の「知る権利」を尊重し、個人情報適正に取り扱うため、県職員を対象に情報公開及び個人情報保護制度に関する研修を行うとともに、情報セキュリティ研修や情報漏えい防止のためのコンピューターウイルス侵入対策、各所属に設置した情報セキュリティ実務担当者による所属内点検の実施等、情報セキュリティの確保に努めました。

インターネットに関するトラブルを回避するためスマホ・ケータイ安全教室を開催しました。

住民票の写し等の不正取得を未然に防止する取組として、登録型本人通知制度を市町村と連携し進めました。

近年、インターネット上で、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現の掲載等による人権侵害が発生していることから、地方法務局等と連携してプロバイダー等への削除依頼を行うなど、被害の拡大防止を図りました。

3 災害と人権

県民の防災意識の高揚と地域の防災力向上を図るため、防災講習会や啓発の実施、地域防災リーダーの育成等を行いました。

災害時の避難所運営を円滑に行うことを目的に、市町村職員及び自主防災組織の代表者等の地域の防災リーダーを対象に「避難所運営リーダー養成講座」を県内各地で開催し、障害のある人、高齢者、妊婦等の要配慮者の避難支援対策や避難所運営における配慮事項等についての理解促進を図りました。

災害発生時の避難等に特に支援を要する避難行動要支援者が、安全に避難できるよう必要となる資機材を整備する市町村に対して支援しました。

障害のある人や高齢者等、避難所生活で特別な配慮を必要とする人のために二次的に開設される福祉避難所のうち、障害のある人に、よりきめ細やかな対応ができる避難所を障害特性に配慮した福祉避難所として指定し、ホームページで公開しました。

また、福祉避難所設置ガイドラインを策定し、市町村と連携しながら、災害時においても人権が十分に尊重されるよう取組を推進しました。

4 女性の人権

和歌山県男女共同参画基本計画に基づき、和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”を核に男女共同参画の社会的気運醸成のための啓発を推進するとともに、政策・方針決定過程や働く場、家庭における男女共同参画を推進するため、人材の育成や、広報・啓発の実施及び事業者、市町村等の取組を支援しました。

女性に対するあらゆる暴力的行為の根絶に向け、配偶者等からの暴力による被害者支援機関と連携を図り、啓発・教育、相談、援助及び保護等を実施しました。

特に、若年層への啓発を強化するため、デートDV防止出前講座を中学校、高

等学校等において実施しました。

また、ストーカー行為に対し被害者への支援を実施するとともに、新たにストーカー加害者に医療機関でのカウンセリングや治療等を推奨する施策を開始しました。

和歌山県立医科大学附属病院内に設置した性暴力救援センターわかやまmine（マイン）において、関係機関と連携し被害者の緊急医療や心のケア等の総合的な支援を行いました。

警察署等の相談窓口において女性警察官の相談員を配置するとともに、性犯罪被害者に係る診断書料の公費負担等を実施しました。

中学生、高校生を対象に、男女が互いの性を尊重する意識づくり・健康づくりを目的とした思春期講座を実施しました。

子供を産み育てたいと切望するも不妊に悩む夫婦に対し、不妊治療費の助成や専門相談など、経済面・精神面の両面から支援を実施しました。

思春期から生涯に渡り直面する女性特有の様々な健康問題についての総合的な相談を各保健所で実施しました。

育児・介護等により家庭で仕事をすることを希望する女性を応援するため、テレワーク（在宅就労）を紹介するイベントや研修会を開催しました。

事業所における女性登用の気運醸成や女性が活躍できる環境づくりを促進するため、「女性活躍企業同盟」を発足しました。

経営・管理者等に対する意識啓発や女性のキャリアアップを応援するため、セミナー及び女性リーダー養成講座を開催しました。

仕事と子育てが両立できる社会の実現に向け、「わかやま結婚・子育て応援企業同盟」を発足し、行政と企業とが連携し、結婚や子育てについての社会機運の醸成を図りました。

結婚・出産で離職した女性等の再就職を支援するため、企業との協働による和歌山独自の就活サイクルを構築するとともに、就職相談体制の充実を図りました。

5 子どもの人権

和歌山県子ども・子育て支援事業支援計画「紀州っ子健やかプラン」に基づき、市町村と連携した子ども・子育て支援の充実を図りました。

児童虐待問題が深刻化する中、和歌山県子ども虐待防止基本計画に基づき、児童虐待の未然防止、早期発見、一時保護、里親制度の普及等に取り組みました。児童相談所においては、児童虐待対応を含む全ての相談・支援を一貫して行うとともに、相談員による24時間直接対応の電話相談を実施しました。

児童養護施設の入所者及び退所者が円滑に自立できるよう、資格の取得費用や生活費等の貸付による支援を実施しました。

子育てしやすい環境づくりに向け、保育所、幼稚園等における多様な保育サービスの実施を支援するとともに、電話による救急医療相談及び保護者や子供に対する悩み事相談、子ども・女性・障害者相談センターでの専門医による精神科診療を実施しました。

保育人材確保のための保育士就学資金等貸付事業や事業所内保育所の施設整備

等を支援し、待機児童の解消対策を図りました。

青少年の健全育成を図るため、和歌山県青少年健全育成条例に基づき、非行防止、有害環境の浄化対策を実施しました。

児童生徒の規範意識の向上、非行防止及びいじめ問題の解決を図るため、少年サポーターによる非行防止教室や相談活動等を実施するとともに、いじめや暴力等の防止に取り組むため、中学校に学校支援サポーターを派遣し、生徒への指導や教職員への助言等を行いました。

少年の非行防止、健全育成及び立ち直り支援の充実を図るため、地域の中核となる人に少年警察ボランティアを委嘱し、非行少年等の早期発見のための補導、被害少年の保護に向けた少年相談、少年を取り巻く有害環境の浄化及び非行防止のための啓発活動を行いました。

教育委員会及び警察本部等と連携したネットパトロールの実施やインターネットを利用する際の情報モラルやマナーの向上を図るための啓発活動を行うとともに、県民を対象としたネット依存防止啓発セミナーや県内全ての小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教職員を対象とした「ネット指導教員養成講座」を開催しました。

「和歌山県薬物の濫用防止に関する条例」等に基づき、薬物乱用防止に関する啓発活動を実施するとともに、メール及び電話による相談窓口を設置し相談に応じました。

また、麻薬・覚醒剤乱用防止運動わかやま大会を開催し、特別講演やパネルディスカッション等を実施しました。

県内3か所に設置している若者サポートステーション With You（ウィズ・ユー）において、働くことに不安のある若者の職業的自立支援を行うとともに、併設の若者総合相談窓口において若者のあらゆる相談に対応するなど、総合的な若者支援に取り組みました。

和歌山県子供・若者計画に基づき、子供・若者育成支援施策の一層の推進を図りました。

児童生徒の直面する課題解決に向け、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に「スクールカウンセラー」を配置し、学校におけるカウンセリング機能の充実を図るとともに、「スクールソーシャルワーカー」を配置し、関係機関との連携を図り、不登校やいじめ問題等の未然防止、早期発見、早期対応に取り組みました。

また、新たに不登校児童生徒支援員を配置し、別室登校児童生徒への学習支援や登校支援を行いました。

特に、いじめ問題については、「和歌山県いじめ防止基本方針」及び各学校における「学校いじめ防止基本方針」に基づき、社会総がかりでのいじめ防止の取組を推進するとともに、弁護士等の外部専門家による学校サポートチームの運用、いじめ対応マニュアル等の活用、メール及び電話による相談事業を行いました。

また、警察本部においても、メール及び電話による相談窓口を設置し、いじめ問題の早期解決を図りました。

不登校を解消するため、「不登校問題対応の手引き」を活用し、不登校問題の未然防止や解消に向けて取り組みました。

子供が発するSOSを見逃さないための対応マニュアルを活用するなど、子供の安全・安心を守る取組の促進を図りました。

学校、家庭、地域が目標を共有し協働して各学校の様々な課題の解決に取り組むため、きのくにコミュニティスクールを平成29年度からの3年間で県内全ての公立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に導入します。また、学校を核とした共育ミニ集会を開催するなど、「地域共育コミュニティ」の推進に取り組みました。

和歌山県子供の貧困対策推進計画に基づき、貧困の状況にある子供が健やかに育成される環境の整備と教育の機会均等を図りました。

帰宅してもひとりで過ごさざるを得ない子供達の居場所を作り、子供の健やかな成長を促進するため、民間団体等が実施する食事の提供等を行う「こども食堂」の取組を支援するとともに、主に小学校4年生から6年生を対象に、学習支援や地域の大人との交流の機会を提供する、公民館等を活用した「子どもの居場所づくり」を推進しました。

経済的事情により、高等学校や大学等の修学が困難な生徒に対して、奨学金等の貸与を行うとともに、進学意欲と学力が高いにもかかわらず、経済的な理由により大学等への進学が困難な学生を支援しました。

6 高齢者の人権

全国に先行する形で高齢化が進行する中、「高齢者が安心して、いきいきと暮らすことができる和歌山」の実現をめざして、「わかやま長寿プラン2015」に基づき、高齢者の人権を尊重した介護サービスの推進や高齢者虐待防止をはじめとする高齢者の人権に関する啓発活動、地域社会活動への参画や就労機会の確保支援等の生きがい対策を推進しました。

介護を必要とする状態になることを予防する取組、認知症に対する正しい知識の普及・啓発活動や認知症サポーターの養成等を推進しました。

若年性認知症の人やその家族の負担を軽減するため、若年性認知症コーディネーターを配置し、本人や家族への寄り添いや福祉サービス等への同行支援等を実施しました。

県内の相談・支援機関等で構成する「和歌山県人権相談ネットワーク協議会」において、相談実務担当職員等を対象にした研修会を実施し、認知症について理解を深めました。

高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らすことができるよう、住民や関係機関が相互に連携協力し、地域における見守りや支え合いの取組を推進しました。

高齢者をはじめとするすべての人の移動及び施設の利用の利便性と安全性の向上を図るため、公共交通機関、公共的施設等のバリアフリー化を促進しました。

運動機能が低下し支援が必要となった高齢者が再び自立した生活を送れるよう、市町村への人的支援や人材育成等、自立支援型ケアを推進しました。

ボランティアやNPO活動など、高齢者の方が社会参加活動を通して生きがいと健康づくりを促進するため、「わかやま元気シニア生きがいバンク」を設置しました。

高齢者が地域で安全・安心に健康で生きがいを持って生活でき、介護や生活支援が必要となっても、地域全体で支え合う豊かな長寿社会の実現に向け、平成30年3月に「わかやま長寿プラン2018」を策定しました。

7 障害のある人の人権

障害のある人もない人も社会の一員として互いに人権を尊重し合い、支え合って共に生きる「共生社会」を実現するため、「紀の国障害者プラン2014」に基づき、障害や障害のある人に対する県民の理解を促進する啓発活動を行うとともに、特別支援教育の充実、地域生活を支えるための相談支援体制及び生活の場となるグループホーム等の整備充実を図りました。

県内7か所の障害者就業・生活支援センターにおいて生活面、就労面の一体的な支援を行うとともに、職場適応訓練やジョブサポーター派遣等による総合的な就労支援策を推進しました。

企業における障害者雇用並びに障害者就労施設等からの物品や役務の調達の促進に取り組みました。

障害のある人を取り巻く状況を把握するため障害者アンケート調査を実施しました。

県内の中小企業等に対して、企業の社会的責任としての人権尊重の理念を普及させ、人権意識の高揚を図るため、障害者雇用をテーマとした講演会を開催しました。

障害者の就労支援事務所について学ぶフィールドワークを開催しました。

障害のある人の社会参加を促進するため、県有施設をはじめ多数の人が利用する施設や公共交通機関等生活空間のバリアフリー化に取り組むとともに、「和歌山県障害者等用駐車区画利用証制度」による障害のある方などのための駐車区画の適正利用を推進しました。

IT等を活用した情報のバリアフリー化の推進等コミュニケーション支援体制の充実を図りました。

ユニバーサルデザインについて理解を深めてもらうため、体験コーナーやパネル展示、DVD上映による企画展を開催しました。

障害者虐待の未然防止と早期対応を図るため、虐待防止に関する普及啓発や研修等に取り組みました。

障害の特性や、障害のある人が必要としている配慮について理解し、困っている場面で積極的にサポートする「あいサポート運動」を推進するとともに、外見から障害等のあることのわからない人が周囲に援助や配慮を必要としていることを知らせる「ヘルプマーク」を交付するなど、誰もが暮らしやすい社会づくりに取り組みました。

身近な地域で発達障害についての相談・支援を受けられるよう、和歌山県発達障害者支援センター（ポラリス）に発達障害者地域支援マネージャーを配置するとともに、市町村職員等に対して専門的知識・技術を習得できる研修を実施し、相談・支援体制の強化を図りました。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」の

施行に伴い策定した「障害を理由とする差別の解消を推進するための和歌山県職員対応要領」「障害を理由とする差別の解消を推進するための和歌山県教育庁及び学校以外の教育機関の職員対応要領」「障害を理由とする差別の解消を推進するための和歌山県立学校職員対応要領」「和歌山県警察における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に基づき、職員一人ひとりが障害の特性や障害のある人に対する理解を深め、必要な配慮を適切に提供できるよう取り組みました。

8 同和問題

同和問題に対する正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るため、「同和運動推進月間（11月1日～11月30日）」において、特別講演会の開催をはじめ集中的な啓発活動等を行いました。

人権侵害事件に対しては、市町村等と連携して解決に向けて取り組みました。

さらに、産業・就労や教育等において残されている課題の解決に向けて取り組みました。

「部落差別の解消の推進に関する法律」が平成28年12月に施行されたことに伴い、法律の趣旨について県民への周知を図るとともに、企業の研修責任者を対象にした研修会を実施しました。

また、県内の相談・支援機関等で構成する「和歌山県人権相談ネットワーク協議会」において、相談実務担当職員等を対象にした研修会を実施し、法律の内容等について理解を深めました。

9 外国人の人権

外国人が安心して暮らせる環境づくりに向けて、外国人に対する理解と認識を深めるための講座開催による啓発や相談支援を実施するとともに、日本語指導が必要な児童生徒の実態に即した教育環境の整備並びに外国語による対応が可能な医療機関の情報提供を実施しました。

平成28年6月に施行されたヘイトスピーチ解消のための法律「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」について、県民への周知を図りました。

多文化共生をテーマに、県民を対象とした講演会を開催しました。

10 感染症（ハンセン病、HIV等）・難病患者等の人権

ハンセン病やHIV等の感染症や難病に対する差別や偏見を払拭するため、正しい知識の普及啓発に取り組みました。

障害者総合支援法に基づき、難病等の方々を対象に関係機関の連携による障害福祉サービス等の支援を行いました。

指定難病及び小児慢性特定疾病等に対する医療費助成等により良質かつ適切な医療の提供を図るとともに、県立保健所や難病・子ども保健相談支援センターを

中心に、難病患者や長期の療養を要する子供とその家族への相談支援を実施しました。

在宅で療養する難病患者の家族の体力的・心理的負担を軽減するため、在宅難病患者の一時入院制度を構築しました。

また、「和歌山県人権相談ネットワーク協議会」において、相談実務担当職員等を対象に、難病に関する知識を深めるため、研修会を実施しました。

1.1 犯罪被害者とその家族の人権

犯罪被害者等の現状や支援の必要性について県民の認識を深めるため、犯罪被害者等支援出前講座を開催するなど、民間団体と連携した広報啓発活動を行いました。

犯罪被害者等からの相談に対し、必要な情報の提供や助言を行うとともに、これらの支援を充実するため、自治体職員や警察職員等を対象とした研修会を実施し、関係機関相互の連携強化を図りました。

犯罪被害者等の再被害防止及び重大な犯罪の未然防止を図るため、警察及び関係機関の連携により、各種防犯対策を実施しました。

「和歌山県安全・安心まちづくり条例」に基づき、防犯カメラの設置を行う市町村に補助金を交付し、犯罪の防止に配慮した環境の整備を推進しました。

1.2 自殺

「和歌山県における自殺・うつ病対策の推進基本方針」に基づき、市町村及び民間団体と協力し相談員等の養成、電話等による相談支援、自殺防止のパトロール強化、自死遺族へのケア等を実施しました。

和歌山県精神保健福祉センターに設置している和歌山県自殺対策情報センターが中心となり、自死遺族等への相談支援を行うとともに、自殺に関する正しい知識の啓発、電話相談窓口の設置等の自殺対策を進めました。

1.3 社会的ひきこもり

ひきこもり者に対して、NPO等と連携し、自立と社会参加を支援しました。

和歌山県精神保健福祉センターに設置している和歌山県ひきこもり地域支援センターにおいて、電話相談窓口の設置やひきこもり者を家族に持つ方への支援等を行いました。

1.4 刑事手続きに関わりをもった人

刑を終え出所した人に対する偏見や差別意識をなくすため、啓発活動を進めました。

和歌山県地域生活定着支援センターを拠点に、刑務所等の矯正施設から出所する人のうち、福祉的な支援を必要とする高齢者や障害のある人の社会復帰を支援

しました。

15 ホームレス

ホームレスに対しては、生活保護を適用し自立を支援するとともに、「ホームレスの実態に関する全国調査」を実施し、状況を把握しました。

16 性同一性障害者等

県立保健所及び和歌山県精神保健福祉センターにおいて、性同一性障害に関する相談を受け支援を実施しました。

性同一性障害等に対する正しい理解と認識を深めるため、県民への啓発を行うとともに、社会教育・学校教育関係者等を対象にした研修会や企業等を対象にした講演会を開催しました。

17 北朝鮮当局による拉致問題

北朝鮮による日本人拉致問題に対する県民の関心と認識を深めるため、啓発を行いました。

第3 人権行政の推進体制等の整備

1 人権行政の推進体制等の整備

(1) 県の推進体制

人権施策の全庁的な推進組織である和歌山県人権施策推進協議会を中心に、関係部局の密接な連携を図ることにより、「和歌山県人権施策基本方針」に基づく施策の効果的な推進に努めました。

和歌山県人権施策推進審議会を開催し、平成30年度に実施する「人権に関する県民意識調査及び事業所アンケート調査」における調査項目について意見を聴取しました。

(2) (公財)和歌山県人権啓発センターの充実

人権教育・啓発活動を総合的に推進する拠点である(公財)和歌山県人権啓発センターの充実を図るため、人権に関する情報収集・発信、人材育成、並びに効果的な啓発を実施するとともに、様々な相談に対応しました。

(3) 国、市町村、関係団体等との連携

和歌山地方法務局、県人権擁護委員連合会、県、市町村、(公財)和歌山県人権啓発センターで構成する県人権啓発ネットワーク協議会により、「人権週間」における集中的な啓発等に取り組みました。

市町村が取り組む人権施策に対する助成を行いました。

(4) 県民、企業、NPO等との連携・協働

企業、NPO等の団体と「和歌山県人権尊重の社会づくり協定」を締結し、締結団体に対して研修講師の派遣、人権に関する情報提供等の支援を行うとともに、県内企業等を対象とした講演会を開催しました。

2 人権施策等の公表と基本方針の見直し

県が実施した人権施策について公表をしました。